

偏見・差別・人権(2)

被差別部落に関する問題(6/5、6/12、6/19) 担当：国際高等教育院 非常勤講師 井岡 康時
自由・平等の理念や合理主義などを基調とする近現代の社会が、なぜ古い時代に淵源をもつと考えられる差別を克服できないのか。さまざまな資料を検討しながら、可能な限り差別意識の深奥にせまり、課題解決の道程を探っていきたい。

外国人に関する問題(6/26、7/3、7/10) 担当：人文科学研究所 教授 竹沢 泰子
第1回：京都にも数多く住んでいる在日コリアン。彼らはどのような経緯で日本社会に住むに至ったのか、帰化するか否かの選択の背景に何があるのか、ジェンダーによる違いは何か、現在、差別はどのような形で再生産されているのか、こうした問題を考える。

第2回：今は、ハーフ・タレントたちがメディアを賑わす空前の「ハーフ・ブーム」である。国際結婚は年ごとの婚姻の5%近くを占めており、それに伴い、複数のルーツを持つ人々が増えている。日本社会における「ハーフ」の表象を検証し、それに抵抗・交渉する当事者たちの生き方を探る。

第3回：1995年1月17日の阪神・淡路大震災を機に、「多文化共生」という言葉が日本国中に広まった。あれから20年以上の歳月が経ったいま、外国籍住民と日本人住民の関係について、支援を受ける側－支援する側ではなく、いかに対等な関係を築けるか、日本人の意識をいかに変えるかが大きな課題となっている。差別や偏見のない社会に近づくにはどうすればよいのか、ともに考えたい。

コーディネーター：国際高等教育院 特定教授 植松 恒夫

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回の小レポートと定期試験で成績評価を行う（小レポート40点、定期試験60点）。
なお、8回以上の出席を定期試験の受験資格とする

【教科書】

使用しない

【授業外学修（予習・復習）等】

講義内容の復習を行うこと

【その他（オフィスアワー等）】